

# 『総合演習 A』に関する事前オリエンテーション (改訂版 v.3.1)

2020.5.13

## ■授業目的

専門領域に関連する和書の輪読を通して、各専門領域についての理解を深める。それにより、3年次のゼミ活動への円滑な導入を促進する。輪読を採用するのは、自分一人で読んで学ぶよりも、他者の学びに触発されて自分の理解が深まることも多いためである。

## ■授業概要

- 授業は5名の教員で行う。それぞれの教員は自分の専門に近い図書を1冊ずつ指定する。
- 学生は前半と後半で計2名の教員の授業を履修する。第1回オンライン授業で全体のオリエンテーションで説明する。前半第2週～6週では1人目の教員の授業を担当し、後半第7週～第11週は2人目の教員で授業を担当する。
- 学生は教員が毎回指定する図書の読書範囲(単元)を事前に読んできて、授業に臨む。この授業は **manaba**<sup>(注)</sup> を活用してグループ討議をすすめていく。そのため必ず、事前に指定範囲を読んでくること。そして理解した内容を自分なりに事前シートにまとめて提出する。(注)manaba (マナバ) はクラウド型の教育支援サービス(湘南キャンパス HP 掲示)

## ■スケジュール ※授業開始の延期に伴い、下記の授業回数を11週に変更しました。

(注)6月20日(土)の土曜日と8月4日(火)の授業は実施しません。

第1週		授業オリエンテーション
第2週	1 人 目 の 教 員	指定図書の第1単元の読後、討議
第3週		指定図書の第2単元の読後、討議
第4週		指定図書の第3単元の読後、討議
第5週		指定図書の第4単元の読後、討議
第6週		指定図書の第5単元の読後、討議
第7週	2 人 目 の 教 員	指定図書の第1単元の読後、討議
第8週		指定図書の第2単元の読後、討議
第9週		指定図書の第3単元の読後、討議
第10週		指定図書の第4単元の読後、討議
第11週		指定図書の第5単元の読後、討議

## ■クラス分けと準備作業

- 履修クラスでは、前半と後半の教員の専門と指定図書などを鑑みて選ぶこと。
- 履修クラスは A～E までの5クラスあり、履修者はこの中からいずれかのクラスに属することになる。
- クラス分けでは各人の希望を考慮するが、1つのクラスがおおよそ20名前後のクラス分け。(別表参照)
- クラスが確定したら即座に図書を購入し、第2週の授業日までに指定の箇所を読んで課題を行うこと。

(図書は文教サービスでの通信販売開始)

## ■教員別指定図書

クラス名	前半(第2講～第7講)		移動	後半(第8講～第13講)	
A	関	ユーチューバーが消滅する 未来 2028年の世界を見抜く	⇒	石野	デジタルは人間を奪うのか
B	松本	EVと自動運転 クルマをどう変えるか	⇒	西川	誰が「知」を独占するのか: デジタルアーカイブ戦争
C	石野	デジタルは人間を奪うのか	⇒	吉田	タテ社会と現代日本
D	吉田	タテ社会と現代日本	⇒	松本	EVと自動運転 クルマをどう変えるか
E	西川	誰が「知」を独占するのか: デジタルアーカイブ戦争	⇒	関	ユーチューバーが消滅する 未来 2028年の世界を見抜く

教員	指定図書を紹介	第1単元(初回) 授業範囲
関	<p>岡田斗司夫著「ユーチューバーが消滅する未来 2028年の世界を見抜く」(PHP新書) ¥968 Kindle版¥765</p> <p>この本の著者の岡田斗司夫氏は、学者でもなければ情報の専門家でもない。とはいうものの、Googleの検索で「おかだ」とまで入れると名前が出てくる有名人である。よく知られた仕事は、ガイナックスという最後までやり遂げられないアニメ会社の創設であり、その精神は著名な庵野秀明氏の仕事に受け継がれている(あくまで私見だが)。</p> <p>本書は、読みやすいような、読みにくいような本である。ニコ生の対談から起こしたもののなので、うなずけるかもしれない。内容は、現代の情報社会の中で生きる人間の振る舞いについて言及していて、あながち間違いではない、鋭い指摘もある。頭の良い元祖オタクの文章は、事実を遡ることもあって、思いのほか読み応えがある。</p> <p>情報社会の課題を少し斜めの切り口から考えたい人には、面白い一冊である。</p>	序章 「未来格差に備える」
松本	<p>鶴原吉郎著「EVと自動運転——クルマをどう変えるか」(岩波新書) ¥858</p> <p>情報社会の進展、ICT技術の発達に伴い、自動車の電動化、自動化、コネクティッド化などが指摘されるようになってきました。また、「モビリティ・サービス」など自動車会社の脱メーカーの動きなど産業構造全体に与える影響も少なくありません。本書では、日本の産業における自動車産業の位置づけやEV、自動運転技術に関する最新動向をまとめてあります。本書を読むことで、今後の情報社会に関して議論が出来ればと考えています。</p>	プロローグ
石野	<p>小川和也著「デジタルは人間を奪うのか」(講談社) ¥814</p> <p>現代のデジタル社会は急発展し続けているが、ネット社会が与えている「光と影」の現実を紹介している。あらゆるモノがネットとつながる社会のIoT(Internet of Things)でモノのネット化で変わる。スマートフォンの次世代ツールとして、ウェアラブルコンピュータ、コンタクトレンズ型ディスプレイ、コンピューショナル・ファッション、3Dプリンター、自動運転の活用など、便利で華やかな生活が具体化してきている。ロボットの台頭や脳と肉体にデジタルテクノロジーが融合する未来など、SFの世界が現実味を帯びてきている。まさに人工知能が人間の能力を超える日が近い。そのうち、ロボットが人間の仕事の大半を担うのかもしれない。さらに仮想と現実の境界線が溶け、仮想企業や仮想通貨が国家体制に影響を与える時代になった。これからのデジタルテクノロジーの進化が近未来の情報社会へどのような影響を与え、我々人間の役割や優位性は何かを考える。</p>	序章 「デジタルの船から、もはや降りられない」(P.3~31)
吉田	<p>中根千枝著「タテ社会と現代日本」(講談社) ¥880</p> <p>グローバル化が進んだ今日では、さらに「多様性」という、多様な価値観を認めることが求められています。しかし、例えばプロジェクトマネジメント分野でも研究・実務を通じて、未だに「なぜ日本は他国と違うのだろう」を考える場面は少なくありません。</p> <p>本書の著者、中根千枝氏は、50年来のロング&amp;ベストセラー「タテ社会の人間関係」の筆者で、専門は社会人類学なのですが、彼女の書籍は社会学的視点からそんな疑問にも解を導いてくれました。そして、女性初東京大学名誉教授である彼女は、2019年11月、現代社会に向けての普通のメッセージとして新たに本書を出版されました。</p> <p>本書を日本社会の基礎知識として共有し、これからの日本と多様性、そして情報技術がこの社会をどう変えていくかを考えたい一冊です。</p>	プロローグ
西川	<p>福井健作著「誰が「知」を独占するのか: デジタルアーカイブ戦争」(集英社新書) ¥836</p> <p>人類の歴史では長らく情報を保存・蓄積・公開するアーカイブ機能は図書館や公文書館が担ってきた。近年はデジタル化された情報も増え、Googleのような多国籍企業がアーカイブの主導権に食指を伸ばしている。その一方で、日本国内においては情報のアーカイブに対する意識が低く、貴重な資料をデジタル化し、アーカイブ化していくための十分な準備がなされていない。本書では国内外でのデジタル・アーカイブの現状を示したうえで、日本が直面している課題を具体的な事例を挙げながら論じている。授業準備では、本書の内容要約だけでなく、授業範囲で取り上げられているデジタル・アーカイブを実際に閲覧してほしい。</p>	第1章 アーカイブでしのぎを削る欧米